

<参加者アンケートから～感想>

- 地味な講座ではあったが、新しい発見、知識があった【70代男性】
- 今年は森林、昨年は玉ネギ。湧別は山、畑、水産～とそれぞれに産業が成立している様に見えるが、実際は山に入る人(稼業・利用者)は年々減少している事に不安を感じる。時代は変わっているが、親しみながら暮らして行きたい!!【60代男性】
- 大変良かった。【80代以上男性】
- 町にいても知らないことがありたけになりました。【40代女性】
- 手曲鋸の角度の検証が興味深く、又164丁の鋸の分類等、沢山学ばさせていただきました。質問者からの提言が大変有意義でした。是非とも森林が有効に活用されるよう町で取り組んで下さるようお願いしています。【70代男性】
- 脇坂さんのお話がとても楽しくためになりました。つまようじのこと、輸出品の梱包材として海外へ湧別の木材が行っていること、などなど、明日からの授業で中学生に伝えることができる生きた教材がたくさんありました。中島さんのお話は、いつもながらみごとな資料をもとにとってもわかりやすく、学ぶ意欲をかきたてられるものでした。こちらも授業の中でさっそく活用させていただきます。いつもいつもありがとうございます。田中課長補佐のお話の際に使われた資料の冊子は林業のことがわかるとてもわかりやすく細かなデータもあり、作られるのに大変ご苦労されたのではないかと感服いたしました。学ぶ会の皆様、このたびはこのような会をありがとうございました。【40代男性 芭露学園教諭】
- 植・育・材のバランスが大切だと痛感しました。働く方々の<4K、5K>から<1K>でも減らして、働き易く、後継者を育てて欲しいですね。【60代女性】
- 我が家、今冬も薪ストーブで暖をとります。大変さもありますが、やはり楽しく暮らしております。木のあたたかさを毎冬感じております。【60代女性】
- 講師の皆さんが誠実に学ばれたり、勤められて来られた日々に頭が下がります。歴史と現実を知ること、未来への希望と計画につながるのだと感じました。講師の皆さん、講座関係者の皆さん、ありがとうございました。【40代女性】
- 自動車部品の輸出にコンボウ材の需要と初めて知りました。森林の大切さ、若い人、子供に伝えていってほしいと思います。【70代女性】
- 資料を揃える(情報収集、冊子の作成 etc.)たいへんな時間と労力を掛けたのだらうなあと思いました。皆さまお疲れさまでした。そして、ありがとうございました。あらためまして、町民としてボーッ!!と生きてはいけな問題があるのだと思いました。【50代女性】
- 湧別林産の歴史、渡辺正喜さん、土井重喜さん等なつかしい顔を思い出しました。林業、奥が深いですね。町有林についても知らないことが多かった。湧別町の町有林面積がオホーツク管内で1番広いなど驚いてしまった。参加者の意見が出て良い講座になりましたね。【60代女性】
- ありがとうございました。
- 湧別の町史をゆっくりじっくり見ることが少ないので、抜すいしていくつかのせていただけてよかったです。勉強になりました。お話を聞いた後に実際にのこぎりを見れてよかったです。刻印には注目したことがなかったので、今回改めて注目できました。脇坂さんの当時をふり返ったお話、おもしろかったです。車の部品の梱包に木材が使われていること、初めて知りました。木材を通して歴史、行政、様々なことを知れました。運営等忙しい中ありがとうございます。とても楽しかったです。【30代女性】



お忙しい中、貴重な時間を割いて準備を進め、町の林業のあゆみや現実の姿・実態をていねいに講義いただいた中島さん、脇坂さん、田中さん、ありがとうございます。繁忙期にもかかわらず、会場に足を運び、一緒に学び、体験に基づいた建設的なご意見や率直な感想を寄せていただいた皆様、ありがとうございます。豊かな学びの時間になりました。改めて、講座「木材」を通して、森林・林業の果たしている役割の大きさ・大切さに気づくとともに、もっと林業に関心をもたなくては行けないと考えさせられました。ありがとうございます。皆様のご協力により、とても有意義な講座になりました。心から感謝申し上げます。(梅田)



第33号(2018年12月5日発行)
 “第8回ふるさと講座報告号”
 編集・発行
 ふるさとから学ぶ会
 代表・梅田
 090-4922-5933

会場から貴重で建設的な意見…とても有意義 —8回のふるさと講座をふりかえる— 根子敏男

今回の講座テーマは「木材」。今回も知っているようで知らないテーマです。第1部では学芸員の中島さんから、主に湧別町の林業の歴史を語っていただき「マッチ時代」や「芭露材時代」といった各時代の特徴、開拓生活と木の関わり、そして当時使われた鋸(のこぎり)の紹介もいただきました。今年のお宝をたずねる旅で学習したハッカと合わせて考えてみると、山間地区の生業(なりわい)が垣間見えた気がします。第2部について、ふるさと講座の当日、ふるさとから学ぶ会の会員は開始1時間前集合でしたので、私もその時間近くに会場に着きました。会員では2番着(1番は多田さん)でしたが、既に講師の脇坂さんが来られており、意気込みが伝わって来ました。町内の製材工場が自動車輸出用の梱包用材を生産していたということも、今回の講座を通じて知り驚かされました。第3部 町水産林務課課長補佐の田中さんからは、専門的・実務的な見地からご説明いただき、本町の町有林面積が管内で一番ということも初めて知りました。私、これまでボーッと生きていて叱られそうです。紙面をお借りして、講師をお引き受けいただいた3名の方に心よりお礼を申し上げます。また、質疑の時間では、会場から貴重で建設的な意見も出て、とても有意義でした。さて、これまで8回のふるさと講座が終了しました。振り返りますとJRY学芸員の得意分野「屯田」「遺跡」をテーマとした2回目までは教育委員会主催。3回目からは「ふるさとから学ぶ会」が中心となった運営となり、「チューリップ」「湧別高校」「サロマ湖」「久美愛病院」「玉葱」「木材」と様々なテーマに取り組んできました。姉妹事業のお宝をたずねる旅を含めて、たくさんの方々にご参加いただき、大変ありがたく思います。私も初回から3回目までは、社会教育の担当として携わり、その後もふるさとから学ぶ会の一会員一町民として協力させていただいております。梅田代表を始め会員の皆さんと協力し、これからも地域のことを学習し広めていきたいと思っております。

初回から3回目までは
 担当者として…
 学ぶ会の一会員一町民として…
 これからも…



(ふるさとから学ぶ会 根子敏男 中湧別町在住)

第8回「ふるさと講座」から ～特別寄稿～

石渡輝道 (計呂地在住)

<もう一つの「木材」…父が始めた「移動木工場」>

今回の講座のテーマ「木材」は、大変参考になりました。ただ、私の知っている、もう一つのこの地域での「木材」にかかわることを書いてみることにしました。

私の父は東京の人ですが、終戦を網走(暁部隊所属)で迎え、妻と子どもが疎開していた妻の実家、計呂地に復員し、故郷東京に帰る日を伺い待ちながら居候をしていました。

そこで義理の兄弟や周辺の人達の協力で、自動車のエンジンを動力とした、移動木工場(動力は自動車エンジン、そのエンジンで丸鋸を回し、運台車と云うものに丸太を積み製材をする)を始めたのでした。

工場と云っても木材集積地に、これらの機械を持ち込み、雨、露を凌ぐ掘立小屋で木工場を始めたのです。父は軍隊時代、自動車整備部隊で、その経験を生かしての創業は、理にかなった職業とも言えたのでしょうか?

当時の父の戦友達は、戦争が終わっても故郷(本州一特に東京、四国)が、焼け野原で仕事がないために帰還せず、網走、常呂等で拾い仕事で生活をしていた方も居て、その中には地元の人と結婚し、骨を埋めた人もいました。

その一人が父でもあったのです。

その戦友達(四国松山、東京)を計呂地に呼び寄せ「移動木工場」を開業したのでした。当時は鉄道の枕木、家の建材等仕事はあり、冬の期間には、雪の少ない根室管内の別海まで行き鉄道枕木の製材をしていたのでした。

<今でも夢に…計呂地駅の丸太土場・木工場…>

その後、計呂地市街に固定した工場を建て、動力も自動車のエンジンで続けていましたが、やがてこの地域にも電気が通ったことから、電動モーターを動力にした木工場になり、ある程度は見通しのある工場運営が出来るようになったのです。ただこの電力(馬力数)が認可制の為、馬力増が容易ではなく、よく父は北海道電力の営業所に足を運んでいました。

また木材仕入れが個人林には限界があり、国有林、道有林、町有林等の官公林の払い下げでの陳情も同時に行っていました。今思うと、当時物資がなく自給の時代、私の家には蓄財もないことから、父は春に子豚を飼い、12月になるとそれを肉にして、私たちは正月の御馳走としていましたが、4本ある足が、何時も家では1本しか食べらず、後の3本は何処に行っているのか当時は不思議に思っていました。後日聞いた話では、お歳暮ということで、電気容量アップの北海道電力営業所長宅、それと木材仕入れの営林署職員宅に運んでいたとのことでした。こんなことは今だから言えることで、当時工場経営のためには、父はいろいろな苦勞をしていたことが、よく分かったのでした。

計呂地の駅にも大きな丸太の土場(木材集積場)があり、計呂岳等から切り出された材木は、ここから国鉄の貨車に積載して運ばれていた事など、今でも時々貨車積載風景や木工場の事を夢で見る事があり苦笑しています。

この周辺地域は、木材工場が多く、計呂地でさえも2工場、芭露、中湧別、上湧別、佐呂間、遠軽等々、木材工場で町は持っていたと云っても過言ではないと云えます。



計呂地駅土場と木炭の発動機(昭和20年)

<復員…望郷を胸に計呂地に生きた父の思い>

私も学校を終えた昭和36年から8年間は父と工場経営に携わって来ましたが、縁があり30歳の時に転職しました。父には申し訳ないと、当時は思っていました。今考えるとそれが良かったとも思えるのです。それは転職頃から木材経営は大変で、計呂地駅から積み出される材木も、太い物が無くなり、当時最盛期の鉦山の坑木に変わり、太い木材は外国から輸入するようになった程、山々は過剰伐採でした。材木の仕入れ先も遠方になったり、仕入れその物が難しくなり、国有林、道有林、町有林への依存度が高く、それにも限界があり、次から次へと合併、廃業した工場もあり、父の木工場も私が去った4年後には廃業しました。創業時期の父の戦友は、昭和20年代後半から30年代初めには帰郷したようですが、父は計呂地に残り、生涯をこの地で過ごしたのでした。

何で…妻の実家の地であったからかもしれない、が、多分父は口には出さなかったけれど、東京に帰りたかったのだと思うのです。それを証明できる出来事がありました。私が父に計呂地の墓地にお墓を作る話をしたときに、即答では許してはくれませんでした。でも、父は亡くなる3年程前に、「お前が建てると云うなら自由にせ」と許しが出たのでした。「人はサケと同じように生まれ故郷に帰る」とよく聞きますが、父も本当は故郷東京に帰りたかったのだと思います。さて、父との思いは思いとし、私の書きたいことは、細々と北海道の片隅で、四苦八苦しスタートさせた戦後の「木工場」の原点、自動車エンジンによる「移動木工場」と云う小さな営みは、「明治の開拓」や「戦後開拓」と同じ様にとは云わないまでも、北海道150年の歩みの中に、「移動木工場」も在ったのだということ、北海道開拓の林業編の片隅に遺しても良いのではと、ここに書き留めた次第です。

また、「終戦時網走暁部隊本州出身者」は、多くは故郷に帰ったようですが、帰郷せずにこのオホーツク原野、そして道内各地に散在し「道産子魂」になって、各分野で頑張った人達が居たと云うことも、忘れてはいけない北海道史のひとつではないでしょうか。

平成30年11月3日 記

(ふるさとから学ぶ会 石渡輝道「町民芝居ゆうべつ」演出、脚本担当)

講座第3部「町の山は今」より

(田中千嘉伸講師資料より)

○湧別町内で指定している保安林

皆さんもご承知とおもいますが、普段飲んでいる水や畑への散水、サロマ湖やオホーツク海へ注がれている養分を含んだ水は豊かな農林水産業を支える礎となっており、この水を恒久的に守るために水源涵養保安林、飲水を絶やさず綺麗な状態を保つために干害防備保安林、土砂崩壊防備保安林、水面に対する森林の投影や魚類等に対する養分の供給、水質汚濁防止等の作用により魚類の生息と繁殖を助ける魚つき保安林も指定している。これら湧別町には9種類の保安林を指定しており、その延べ面積は1,273haとなっています。

○湧別町の植樹活動

山からサロマ湖やオホーツク海に注がれている水は養分を豊富に含んでおり、豊かな漁業資源を支える源であります事から漁業資源の保護増進を図るために、この水を恒久的に絶やさぬ取組として湧別漁業協同組合の女性部が主体となり昭和63年度より毎年のように「浜のかあさん植樹祭」が実施されています。今までに植栽された樹種はトドマツ、ミズナラ、ヤチダモであり、植栽本数は約15,000本となっています。

植栽した場所は緑蔭地区、登栄床地区、芭露地区、計呂地円山地区で、面積は7.27haとなっています。

また、植樹祭と同時に青年部の方々により今まで植栽した場所の下草刈を実施しており、母さんが植えた木を息子達が大事に育てています。

